

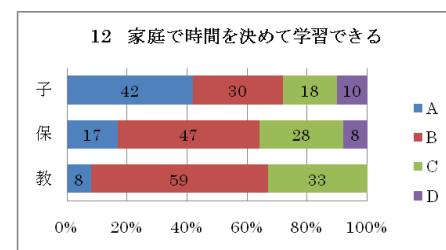
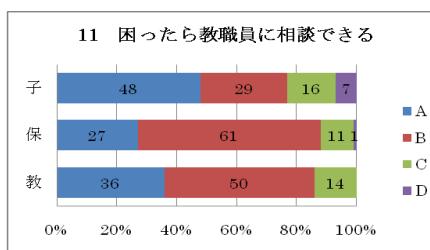
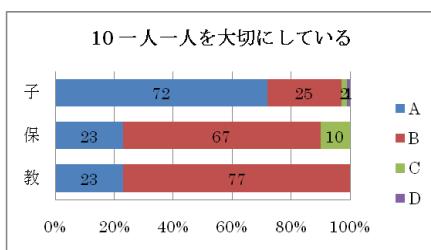
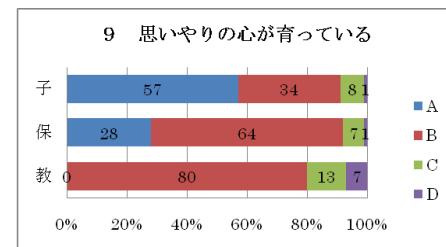
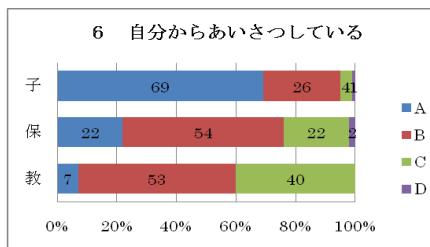
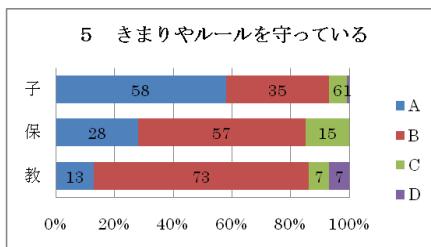
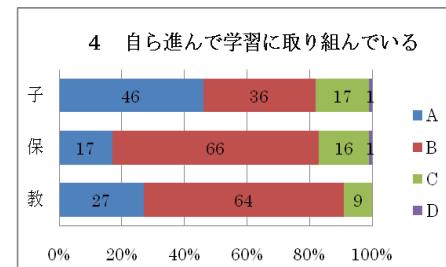
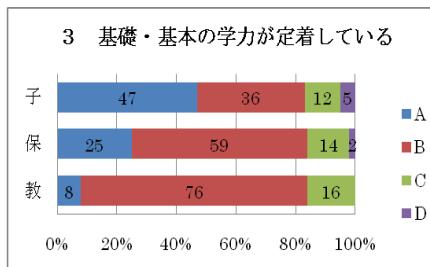
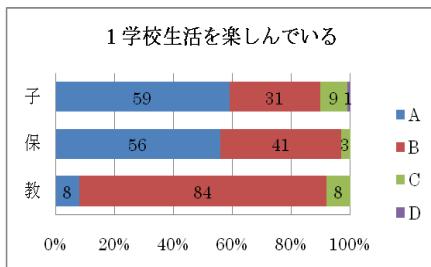
前期学校評価から

A・・よくできている

B・・大体できている

C・・あまりできていない

D・・できていない



1. 「知・徳・体」のバランスのとれた健全な成長のためには、楽しい学校生活はかかせません。「学校で楽しく過ごせていない」としている子がC・D 10%いることは、学校として大いに反省すべきことです。一人残らず、100%を目指し、楽しい学校生活が送れるように、いっそう子どもの心に寄り添います。

3. 基礎基本の習得の中心は「授業」です。勉強があまりできていないと感じている子が17%います。保護者も16%の方が基礎基本が定着していないと考えています。「授業」は教師の生命です。深い子ども理解と豊かな教材研究の上に、いっそう一人一人に届く計画的な授業づくりを目指します。子どもは「できた!」「わかった。」という時に自信をつけるものと考えております。また、自信をつけていくことで、4. 「自ら進んで学習に取り組んでいる」の改善にもつながっていくと考えています。

5. 社会で生きて行く上で、ルールや決まりは切り離すことのできない大切なものです。ルールや決まりを守ることは、自分自身が守られることにもつながります。しっかり守れる子どもになるように、大人が見本にならなければなりません。

6. 大人も子どもも、その場に応じた挨拶ができるることは大事なことです。人と人との心をつなぐ挨拶が、家庭でも学校でも地域でもできて習慣化してほしいと考えています。学校では、子どもたちが意識できるように、朝、校門前でのあいさつや意識づけをしています。

9. 子ども9%・保護者8%が「やさしく」できていないと感じています。教職員は20%が感じています。どういう言葉かけや態度がやさしいのか、具体的に示しながら子どもたちと一緒に考えていきます。まわりに優しくするには、自分に対しても優しくすることが大切です。まわりにやさしくすると、自分がまわりから優しくされます。

10. 子どもが「先生たちは、ひとりひとりを たいせつにしてくれている。」について、C・D 3%・保護者が、「学校は、子ども一人一人を大切にして教育を進めている。」について、C 10%と答えていることをしっかりと受け止めなければなりません。今の自分に自信を持ち、将来展望をしっかりともてる子どもに育てるここと、甘やかすのではなく、子ども（の人権）を大切にする学校であるよう、取り組んでまいります。

子どもは、家族・学校（友だち・教職員）・地域社会等、環境の中で育ちます。一人で生きているのではなく、周りとの関係の中で生活しています。大人も子どもも、家庭も学校も地域も互いに高まりあう関係でありたいものです。

11. 困りやつまずきは誰にでもあるものです。しかし、その時に相談にのってくれる友だち・大人がいると立ち直りがはやいものです。学校では、教職員がいつでも子どもの相談ができる相手になれるよう、よりいっそう努力いたします。

12. 予習や復習が、授業と結びついた時、より定着が確かなものになります。短時間でも家庭学習を継続する習慣をつけたいものです。学校では、読書活動を進めています。毎年行われている6年生の全国学力・学習状況調査でも家庭学習や読書の習慣のある子は、比較的高い正答率を出しています。

※来年度の学校評価の項目について、具体的な内容になるよう検討していきます。後期は、同じ項目でアンケートを後日お願ひいたします。ご了承ください。